慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アシャンティ族における男性と女性の二元的な象徴分類 : 「カラブレ」の経済交換の文化人類学的考察
Sub Title	The male/female dual symbolic classification among the Ashanti : the cultural anthropological analysis of "kalabule" economic exchange
Author	阿久津, 昌三(Akutsu, Shozo)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1983
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.23 (1983.) ,p.97- 106
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究ノート
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000023-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

アシャンティ族における男性と女性の二元的な象徴分類[0)]

——「カラブレ」の経済交換の文化人類学的考察——

The Male/Female Dual Symbolic Classification among the Ashanti: The Cultural Anthropological Analysis of "Kalabule" Economic Exchange

阿久津　昌　三
Shozo Akutsu

In this paper I attempt to analyse Ashanti rituals of exchange and social behaviour from the viewpoint of male/female dual symbolic classification.

The period between 1972 and 1981 in Ghana may be described as a paralysis of political life and "kalabule" economic system (Hausa expression "kere kabure") after the rapid alternation of civil-military-civil-military governments. "Kalabule" means quite simply a lot of money chasing few goods. In the midst of the scarcities that resulted from political and economic crises, the principles of specialisation and division of labour were employed and "kalabule" operations got stabilized in various spheres or markets.

The most cultural anthropological fact of male/female complementarity is that the reciprocal gift-exchanges express a structural opposition between a man's clan (abusua) and a wife's clan (abusua), such as the Melanesian "kula" or American Indian "potlatch".

The materials of this article were collected during the cultural anthropological research in Ghana. I was engaged in the preliminary research for four months, namely from December 1981 to April 1982. During my fieldwork, just then, on December 31, 1981, Rawlings coup took place to transform the socio-economic structure ("kalabule") of the Ghanaian society.

I　序

植民地化以後の広範囲にわたる政治的・経済的権力形態の変化に伴ない，ナショナル・レヴェルのマーケット・システムは，地域レヴェルの社会的・経済的活動に影響をおよぼしてきた。市場交換経済は，「伝統的」な社会のすべての価値を貨幣に還元し，「伝統的」な社会の互酬的な給付関係を変化させた。

また，市場経済の交換は，家族，親族，村落，部族などの「相互交換」にもとづく経済活動との関連において考察されねばならない。

「伝統的」社会における実質的な経済活動は，「ある特定の制度的条件(交換のための特定のルール)」のもとでおこなわれている。経済交換は，文化人類学的には，上昇給付と下降給付との循環であるが，「伝統的」社会における互酬的な贈与交換の分析は，「制度化された基準枠」[1)]と照合しながらおこなわれなければならない。

なぜならば，互酬的な贈与交換のみられる社会では，社会的交換，象徴的交換が重要な意味をもってくるからである。すなわち，互酬的な贈与交換の分析は，親族組織，経済関係，政治組織，社会構造などを説明するひとつの軸となるからである。

また，経済交換の＜場＞としてのマーケットの主要な特徴は，循環 (circulation) と周期性 (periodcity) である。異なるエスニック・グループは，都市と村落のマーケットにおいて，時間的，空間的に棲み分け，それぞれにちがった生活の＜場＞を確保し，ちがった生活の＜場＞の上に成立する。

地域社会のリーダー・フォロワー関係が変化するにしたがって，エスニック・グループの社会的位置は，時間

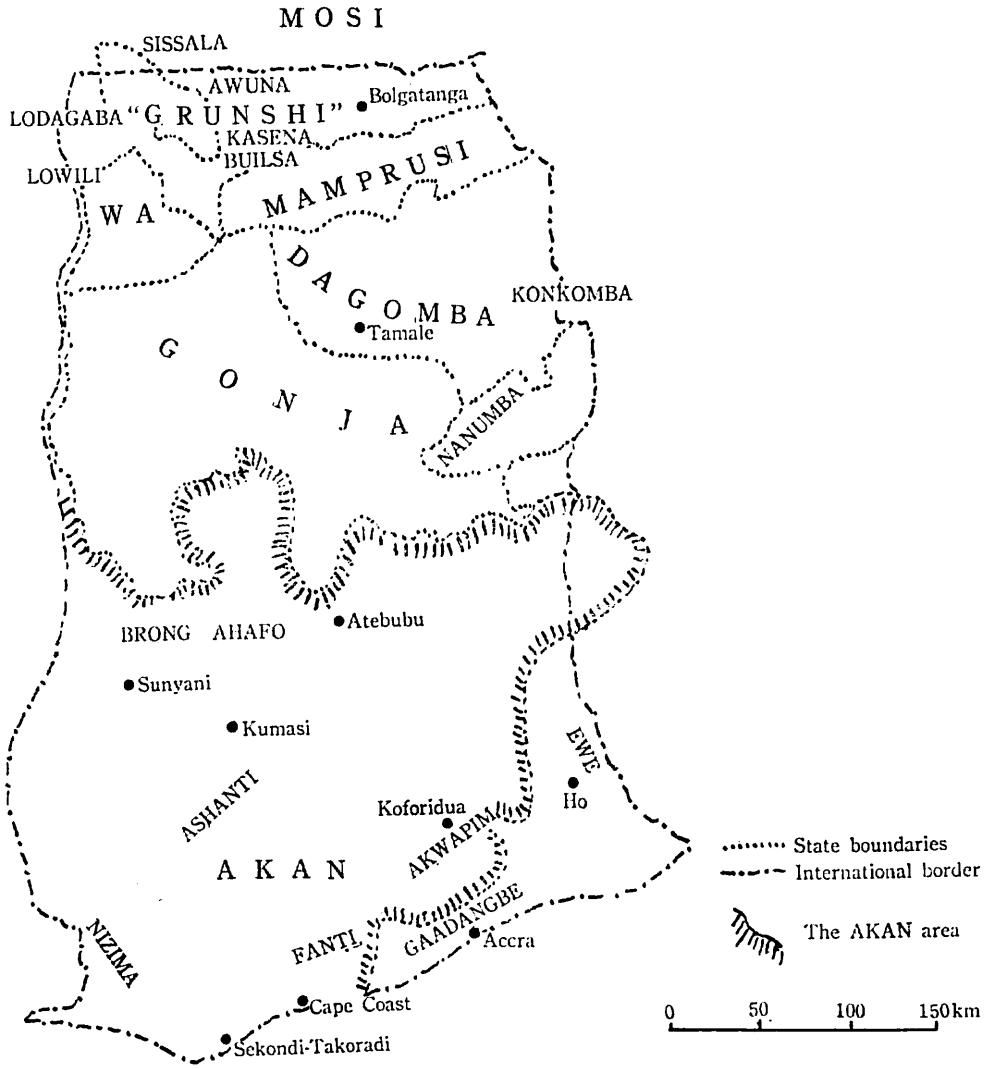
的，空間的に変わり，歴史的な推移の中で，物と物との交換，物と貨幣との交換，情報と情報の交換もまた絶えず変化してきている。貨幣経済，外部的な政治権力形態の変化に伴ない，地域社会において互酬的な贈与交換が変化しつつある。

本稿において，筆者は，アシャンティ族における男性と女性の二元的な象徴分類をとりあげ，さらに，ガーナ社会における社会経済構造の危機の主要な症候群としての「カラブレ」の経済交換と二元的な象徴分類との関係を考察する。男性と女性の二元的な象徴分類は，アシャンティ族の互酬的な贈与交換，ライフ・サイクルの通過儀礼，親族関係，社会組織などとの関連において分析されねばならない。

II　ライフ・サイクルの通過儀礼

1. 出産

通過儀礼 (rites de passage) は，一生のサイクルの節々におこなわれる儀礼であり，誕生，命名，成人，結婚，葬送などをはじめ，年齢階梯組織，軍事組織，祭祀組織などの加入式の儀礼がある。通過儀礼は，広義的には，個人や集団がある状態から別の状態に移行する際に行なわれるもろもろの儀礼をいうが，狭義には人生儀礼



第1図

(life-cycle calendrial ritual) を指す。

アシャンティ族の双分組織の主要な特徴は，父系制と母系制の社会組織の混合である。アシャンティ族の双分組織は，父系的要素「精霊」(ntɔrɔ or sunsum) と母系的要素「血液」(mogya or bogya) の分割に基礎づけられている[2]。このような父系的な要素と母系的な要素の分割は，1つの氏族，1つの血液 (abusua baako, mogya baako) という諺に表わされている。子どもは，男性の「精霊」(ntɔrɔ) と女性の「血液」(mogya) とが結びついて生まれる。

男性と女性は，明確に識別される3つの霊魂(1)母と彼女の氏族(abusua) から継承する「血液」(mogya)，(2)父から継承する「精霊」(ntɔrɔ)，(3)出産時に子どもの体内に入る祖先の霊魂を所有している。孫（男）は，祖父の生まれ変わりとして社会的地位を継承する。「精霊」と「血液」との関係は，男性と女性の二元的な象徴分類 (dual symbolic classification) を構成する。

女性は，妊娠していることに気づくと，夫に2羽のニワトリを持ってゆく。難産から守るために，妊婦の子宮を浄化する儀礼がおこなわれる。神酒が神 (Ɔbɔadeɛ) に献げられる。ニワトリは，殺される前に，3度女性の身体に触れられる。アカン語族の主要な儀礼的な食物 (oto, 卵を添えたパルム・スープと搗りつぶしたヤムいもの料理) とニワトリの肉は，男性の親族集団の人々によって食べられる。妊娠の子宮の浄化儀礼の後に，子宮の中の子どもは，母系の氏族 (abusua) と父系の軍事組織 (asafo) の成員となる。

また，子どもは，母親の生まれた家，あるいは氏族の家（通常，彼女の母親と兄弟の住んでいる場所）で生まれる。出生後の8日目に命名の儀礼 (mpuei or ntetea) の饗宴が，父の親族集団の人々によっておこなわれる。成人前の息子は，父親の監督と訓練のもとに置かれ，軍事組織の中でさまざまな活動と役割をはたす。成人前の娘は，母親の氏族 (abusua) で育てられる。

このような，子どもの社会化は，男性の氏族と女性の氏族の親族と出自の構造的対立関係を表わすものである。男性と女性の二元的な象徴分類体系は，父系制と母系制の双分組織の相互補完の関係のもとに形成される。すなわち，象徴分類体系は，社会の中で生活している人々の社会行動の規範のモデルとして機能している。

2. 結婚と離婚

男と女の性関係には，(1)売春 (gyanta; tuutunni)，(2)近親のプラトニックな恋愛 (adamfo)，(3)セックス・フレンド (mpena)，(4)慣習法にもとづく妻 (yere) の4つの形態がある。男女間の性関係は全体的な給付関係の一部であり，全体的な給付関係は，物資財，特権，義務のような社会的価値と交換される物（女性）を対象としている。婚姻を構成する総体的な交換関係は，ただ単に1人の男と1人の女との贈与交換から成りたつものではなく，男性と女性の2つの集団の間に成立するものである。1組の男と女の間に展開する婚姻の互酬性のサイクルは，「広大な互酬性のサイクルの副次的様式」にすぎない[3]。

集団から集団へ，部族から部族への互酬的な給付関係の中に女が含まれることは，一般的な慣習になっている。婚姻は総体的な給付関係の循環のひとつとなっている。

アシャンティ族の婚姻形態は，外婚的な父系集団 (agyanom) と外婚的な母系集団 (abusua) との双系的交叉イトコ婚である。エゴ(ego)は，傍系親族のイトコ，すなわち父の姉妹の娘 (Fa Si Da 父方交叉イトコ姉妹)，母の兄弟の娘 (Mo Br Da 母方交叉イトコ姉妹) と結婚することが可能である。

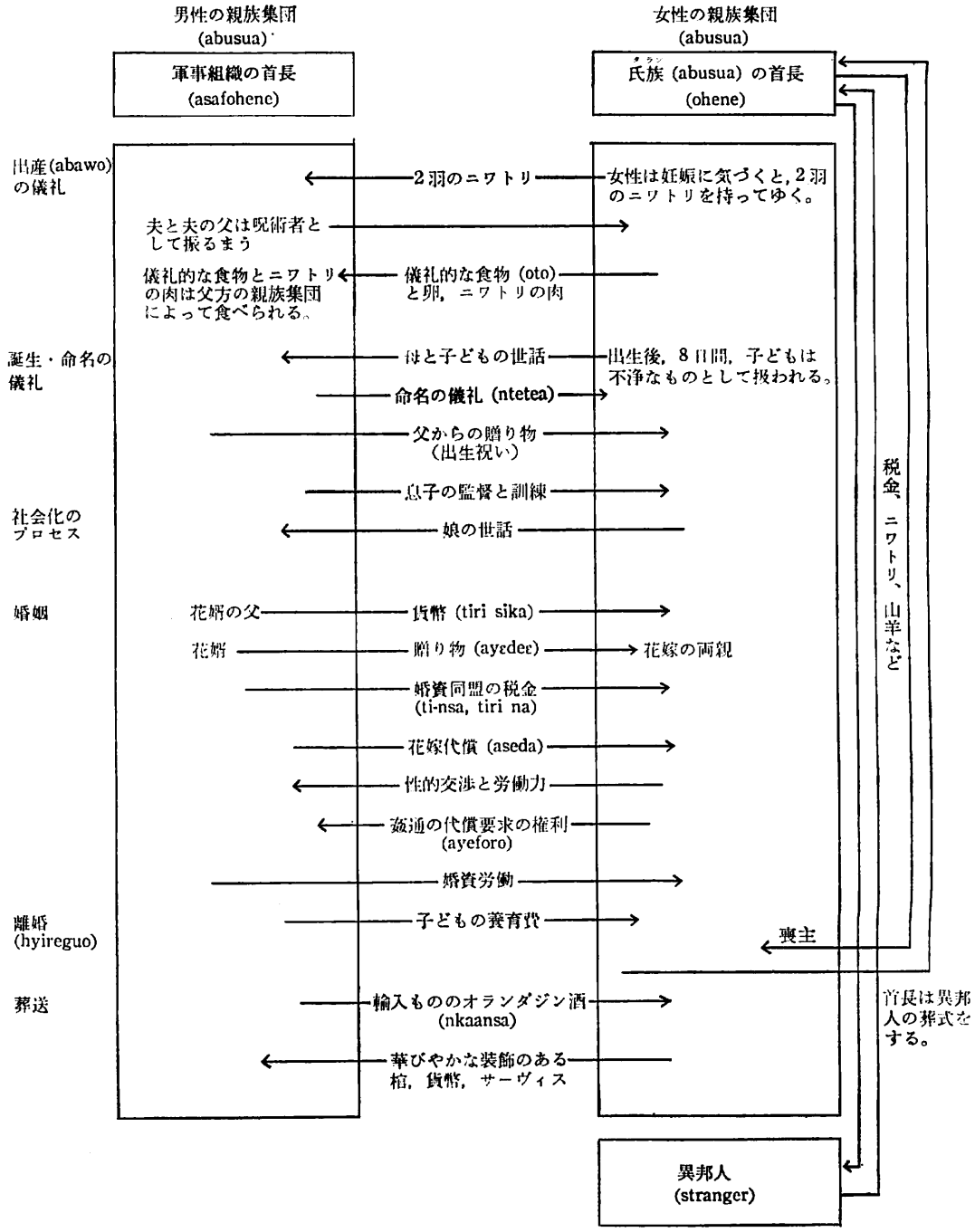
アシャンティ族の婚姻の調整工作において，2つの親族集団間の互酬的な贈与交換が行なわれる。それらの贈与交換の内容は，(a)花婿の父が相手方の集団に贈る貨幣 (tiri sika)，(b)花婿から相手方の両親に贈る贈り物 (ayɛdeɛ)，(c)花婿の親族集団による招待と花嫁の親族集団による受諾（婚姻同盟の税金），(d)花嫁代償がある。

花婿は，花嫁代償 (aseda) として，ホロホロチョウ (pregan)，ジンの地酒 (akpeteshi パルム・ワインの蒸留酒)，ラム酒 (tinsa) を花嫁の親族集団に贈る。花婿は，反対給付として，女性の性関係の役割と労働力，また，妻が姦通した場合に代償を要求する権利を獲得する。

また，結婚式の饗宴 (ayeforo) は，処女の花嫁に贈られる贈り物である。女性は母系の出自の父系居住のために，自分たちが生活している集団の中にあって常に異邦人である。彼女自身の財産は，彼女だけのものとして残される。

離婚 (hyireguo, awa'degyae) の主な原因は，石女（妊娠する能力のない女），夫婦喧嘩，姦通などがあげられる。特に，婚姻におけるアシャンティ族のひとつの価値は，子どもをうむことであり，婚姻は子どもが生まれてはじめて成立する。子どものないことは，男性と女性にとって「すべての人間的な悲劇と屈辱」[4] の最たるものである。

石女（妊娠する能力のない女）obonin
子なし男　ɔkrawa



第2図　男性と女性の親族集団における贈与交換

さらに，離婚はただ単に1人の男と1人の女との問題ではなく，2つの親族集団の間の悲劇と屈辱を生みだすのである。

3. 葬送儀礼

アシャンティ族の二元的な象徴分類は，出産，結婚，葬送の通過儀礼において顕在化する。婚姻における互酬的な贈与交換も複雑であるが，葬送儀礼の際の贈与交換は，2つの異なる氏族(クラン)間の社会的紐帯を強化する機能をもっている。

葬式の準備に先立って，妻の親族集団の首長 (ohene) が喪主として選出される。首長は未亡人 (寡婦 kunafo)，故人の親族の子どもたち，親戚，友人に葬儀の日取りを通達する。(Appendix 参照)

妻の兄弟は，兄弟の姉妹（妻）と姉妹の子どもたちのために，男性の親族集団からヌカンサ (nkaansa) を受け取る。ヌカンサは，夫の親族集団から妻と子どもたちに贈られるジンの地酒 (akpeteshi) ―あるいは輸入もののオランダジン酒―の贈り物である。高価なオランダジン酒は，死者の社会的地位と威信を表わす象徴である。これに対して，エシィエジ (esiedze) は，女性の親族集団から男性の親族集団に贈られる義務的な反対給付である。反対給付の贈り物は，華びやかな装飾のほどこされた棺，あるいはそれ相応の現金のサーヴィスなどである。

メラネシアの「クラ」(kula) や北米インディアンの「ポトラッチ」(potlatch) の贈与交換と同様に，男性と女性の互酬的な給付関係は，男性と女性の異なる氏族(クラン)間の構造的な対立関係のもとに成立する。

〔男性〕	〔女性〕
父(agya or paapa)	母(ena or maame)
父の「精霊」(ntɔrɔ or sunsum)	母の「血液」(mogya or bogya)
精霊の強い女性 (obaa banyin)	精霊の弱い男性 (banyin obaa)
子どものない男性 (ɔkrawa)	石女(obonyin)
父系の軍事組織 (asafo, agyanom)	母系の氏族(abusua)
男性の親族集団からの交換(nkaansa)	女性の親族集団からの交換 (esiedze)
王(omanhene)	母后(ahemmea)
不吉な日：水曜日 (Wukuda)	吉日：月曜日(Dwoda)
金曜日 (Fida)	火曜日(Benada)
	木曜日(Yawda)
日曜日 (Kwesida)	土曜日(Memenda)

しかしながら，男性と女性の異なる氏族(クラン)間の構造的な対立関係は，第3の出自の形態，すなわち世襲的な食物禁忌 tcina（それを破るとライ病になる）との関連において再検討されねばならない。クロード・レヴィ＝ストロースが指摘するように，世襲的な伝達には3つの異なる形態がある。「息子は彼の父に対して禁じられている物を食べない。また，この点について娘は母親の例にならう。」[5]

第1の世襲的な伝達は，息子と娘が父の「精霊」(ntɔrɔ) を継ぐ形態であり，第2は，息子と娘が母の氏族(abusua) を継ぐ形態であり，さらに第3は，息子が父の食物禁忌 (tcina) を，娘は母の食物禁忌 (tcina) をそれぞれに継ぐという形態である。このような第3の出自の形態は，「交叉イトコ婚と，それがアシャンティ族の社会組織に対してもつ特殊な関係」[6] から，父の姉妹の娘（父方交叉イトコ姉妹 Fa Si Da）との結婚の可能性を再発見させることになる。

ライフ・サイクルの通過儀礼（出産，命名，結婚，葬送）は，2つの異なる氏族 (abusua) 間の互酬的な贈与交換によって社会的紐帯を強化するのである。

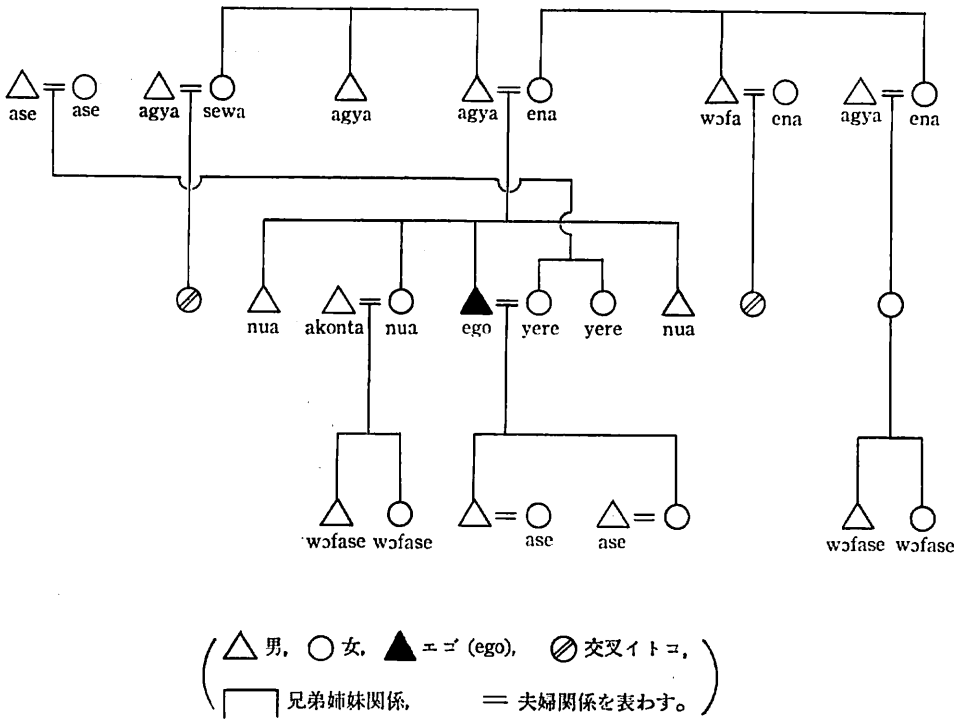
III　アシャンティ族の親族集団

親族関係は，アシャンティ族の社会生活において，人々に特定の権利と義務を遂行させる規範となり，また，母系的な社会組織の基礎をなすものである。アシャンティ族の社会組織は，6つの氏族 (abusua)，さらに，下位集団レヴェルのコーポリット・グループ (corporate group) から構成される。

アシャンティ族の氏族 (abusua) とトーテムの動物 (tweneboa 木の意味) は次のように分類される。

〔氏族〕	〔トーテムの動物〕
Aduana	蛙 (atwɛre)
Asenie	蝙蝠 (asenewa)
Asona	鳥 (anene)
Beretuo	土龍 (afweaaa)
Ɛkoɔnà	野牛 (ɛkoɔ)
Ɔyoko	鸚 (ako)

第3図は，アシャンテイ族の親族名称語彙を表わすものである。①父 (Fa) はアジャ (agya) と呼ばれ，母 (Mo) はエナ (ena) と呼ばれる。②父の兄弟 (FaBr)，父の姉妹の夫(FaSiHu)，母の姉妹の夫 (Mo Si Hu) はアジャ (agya) と呼ばれ，母の姉妹 (Mo Si) はエナ (ena)，父の姉妹 (FaSi) はセワ (sewa) と呼ばれる。



第3図　アシャンティ族 (Ashanti) の親族集団

③母の兄弟 (Mo Br) は，拡大家族の世帯の家長を意味するウォファ (wɔfa) である。④妻 (Wi) と妻の姉妹 (Wi Si) はイェレ(yere) であり，夫としてのエゴ(ego) はクヌ (kunu) である。⑤義理の兄弟は，夫方と妻方のいづれの場合でも，アコンタ (akonta) と呼ばれる。

レヴィ＝ストロースによれば，交叉イトコ婚の婚姻形態との関連において，アシャンティ族の親族名称体系については，次のような公式がある。

ase　　母の兄弟の妻＝配偶者の母
ayere　母の兄弟の娘＝妻
akonta 母の兄弟の息子＝義理の兄弟

しかし，実際のアシャンティ族の親族名称体系において，アセ (ase) は，配偶者の父 (Wi Fa)，息子の妻 (So Wi)，娘の夫 (Da Hu) を含み，また，配偶者の姉妹 (Wi Si) もイェレ (yere) と呼ばれている。親族名称語彙は，ただ単に個人の系譜的な関係の位置を表わすものではなく，社会集団の分類を意味する社会的カテゴリーを表わし，互酬的な贈与交換，婚姻，公職の継承，土地の相続などの基礎になるのである。

しかしながら，異なる部族間の婚姻は，互酬的な贈与交換の形態，土地保有，公職の継承などを複雑にしてしまう。母系制の女性と父系制の男性との婚姻は，第2図のような男性と女性の異なる氏族 (abusua) における互酬的な贈与交換を複雑にしてしまう。父系制と母系制との相続争いを避けるために，「戦略的な婚姻のメカニズム」(circumventing mechanism)[8]が機能する。

IV　カラブレの経済交換

1　カラブレの経済交換の基礎構造

アシャンティ族の双分組織は，父系制と母系制の社会組織の混合から構成され，男性と女性の二元的な象徴分類体系が，アシャンティ族の社会行動を規制している。また，第3の出自の形態としての食物禁忌 (tcina) は，婚姻規制に影響をおよぼし，母方交叉イトコ姉妹のみならず，父方交叉イトコ姉妹との婚姻を生みだしている。交叉イトコ婚の婚姻形態が必要なのは，孫（男）が祖父を再生し，彼は，社会的地位に関して，祖父の生れ変わりであるからである。個人は互隔世代において氏族 (abusua) と精霊 (ntɔrɔ) をもつことができる。

さらに，男性と女性の分業関係は，アシャンティ族の二元的な象徴分類の相互補完の関係から説明することができる。労働雇用の形態としては，伝統的なシステムと

賃銀システムがある。伝統的な労働雇用の形態は，2つの異なる氏族(クラン) (abusua) に属する家族の成員と友人関係，互酬的な給付関係によって結ばれたアブサ・システム(abusa system) である。また，近代的な賃銀体系による労働雇用の形態は，地域社会に居住する異邦人を雇用するものである。

伝統的な労働雇用形態は，男性と女性の2つの異なる氏族(クラン)間の互酬的な給付関係によって形成されているのに対して，近代的な労働雇用形態は，市場経済の交換の要素を含んでいる。

「伝統的」社会の男性と女性の分業形態は，男性の伐採，焼畑造成(火入れ)，ヤムいもの植え付けと，女性の農作地の耕作と準備，ココ・ヤム，キャッサバの植え付けであるが，男性と女性の社会行動は，二元的な象徴分類における吉日と不吉な日の曜日によって規制されている。

二元的な象徴体系は，アシャンティ文化に世代を超えて伝達されてきた集合表象であり，個人の体験を組織化していく認識体系であるから，ガーナ社会に職業分化が生じたとしても，根本的に変化するものではない。このような意味で，マーケット・マミーと軍隊・警察官との二項対立は，二元的な象徴体系の枠組をなしているひとつの状況における「社会的事実」である。

2　カラブレ・ウーマン

ガーナ経済における商業部門に属する労働者の75%がマーケット・マミー (market mammies) と呼ばれる女性たちである。すなわち，ガーナ社会の経済構造のひとつの特徴は，マーケット・マミーのはたす経済交換の役割に見ることができる。このような経済交換の構成原理は，「伝統的」社会の互酬的な給付関係を基礎にしている。男性と女性の象徴的な二項対立は，マーケット・マミーの経済交換にみられる社会行動を規制している。

ガーナ社会の1972年から1981年までの時期は，日常語として使われていたカラブレ (kalabule) の時期として特徴づけられている[9]。カラブレとは，ハウサ語の「ケレ・カブレ」(kere kabure) という語源からきており，「内密にしておけ」という意味であるが，贈賄，買いだめ，不当な利益あさり，不正な取引行為を含めた広い意味で使われている。若い魅力的な女性たちは，政府の高級官僚，軍隊の幹部に肉体と貨幣を与え，逆に，反対給付として，商取引の許可証を獲得している。

カラブレの経済交換の対象となるものは，(1)日常必需品，(2)小麦粉，砂糖，米，(3)建築資材，(4)魚，肉，(5)綿織物，食器，(6)ビール，飲料水，コカ・コーラなどである。例えば，カラブレの経済交換のプロセスにおいて，砂糖 (500セディ)，米(550セディ)，小麦粉(450セディ)の価格は約10倍になる。

カラブレの経済交換が重要であるのは，この交換の形態が，男性と女性の2つの異なる氏族(クラン)間の互酬的な給付関係を基礎にしているからである。男と女の性関係は，全体的な給付関係の一部であり，結婚前・後の性的な交渉は，常態の社会的規範を破壊しない限り認められる。

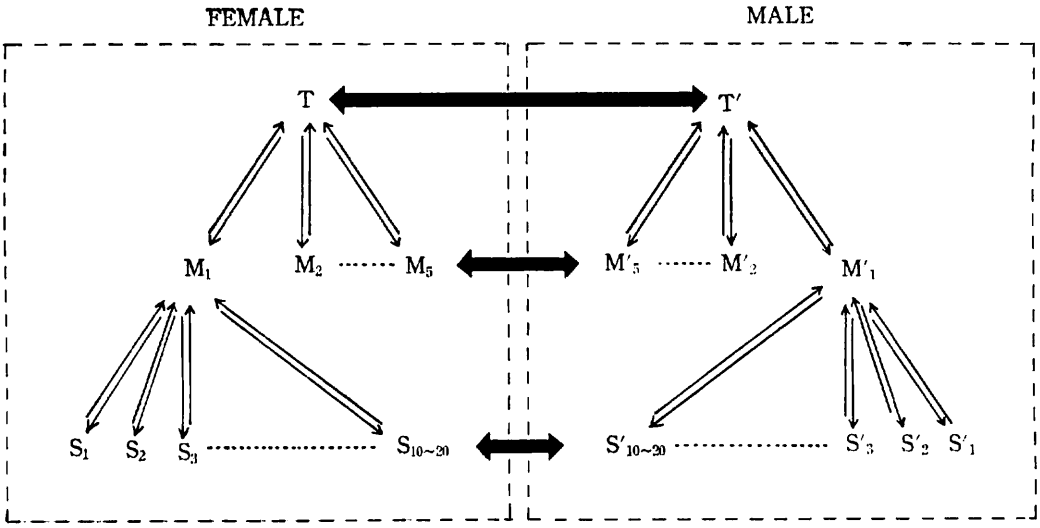
プラトニックな恋愛 (adamfo) とセックス・フレンド (mpena) の性関係は，部族間および近親婚の禁止された氏族(クラン)間との互酬的な給付関係を生みだす。また，夫婦関係 (kunu-yere) にもとづくカラブレの経済交換は，2つの氏族(クラン) (abusua) 間の互酬的な給付関係の一部となる。さらに，特殊形態としての売春 (gyamfo) の経済交換は，セックス・フレンドの性関係と異なり，市場経済の交換を基礎にしている。

ガーナの売春婦は，ラゴス，イバダン，アビジャン，ロメなどの隣接諸国で働らいている。彼女たちは，売春マミー (prostitution mammies)，あるいはラゴスのアゲゲ地区に居住していることから，嘲笑の意味をこめて，アゲゲ・ウーマン (Agege women) と呼ばれている。彼女たちは，ラジオ，テレビ，扇風機，カセット・テープ，ネックレス，ブレスレット，指輪，時計などの装飾品を国内に持ち込み，原価の数10倍で売る。

カラブレ・ウーマンは，上層("top" kalabule women)，中層("middle" kalabule women)，下層 ("small" kalabule women) の範疇に分類される。カラブレ・ウーマンは政府の高級官僚，軍隊の幹部，警察官との互酬的な給付関係をもっている。

アシャンティ族の双分組織の原理は，政治的・経済的権力形態の急激な変化がみられるにもかかわらず，根本的に変化していない。したがって，カラブレの経済交換の構成原理は，男性と女性の親族集団間の二元的な象徴分類体系からの影響をうけざるを得ないし，また，「伝統的」社会の互酬的な給付関係の基盤があって機能するものである。カラブレの経済交換は，男性と女性の2つの異なる親族集団における親族関係，友人関係，パトロン-クライアント関係によって結ばれた互酬的な給付の一部である。また，カラブレの経済交換は，互酬的な贈与交換を基礎としているが，貨幣経済の浸透に伴なう市場経済の交換原理がカラブレの経済交換には含まれている。

貨幣経済の浸透，異なる部族間の婚姻の増大に際しても，アシャンティ族の社会では，基層文化には，互酬的



第4図　カラブレの経済交換のモデル
T：“top” kalabule women
M：“middle” kalabule women
S：“small” kalabule women
* T′, M′, S′ は “top” “middle” “small” の軍隊，政府役人，警察官などを表わす。
** ⟶ 贈与関係，親族関係，姻族関係，パトロン-クライアント関係，友人関係，近隣関係などを表わす。

な給付関係がある。新しい婚姻形態は，互酬的な贈与交換と市場経済の交換との調整において成立する。

3　軍隊と警察のエスニック・グループの構成

アシャンティ族の双分組織は，男性と女性の親族集団の二元的な象徴分類体系を基礎にしている。したがって，カラブレの経済交換は，男性と女性との互酬的な給付関係において考察されねばならない。特に，カラブレ・ウーマンのほとんどがアシャンティ族であるという理由は，政治権力の象徴としての軍隊と警察のエスニック・グループの構成にもとめられるであろう。

1961年には，軍隊の下士官の60%，陸軍下士官の80%がガーナ北部の出身であった。彼らは，教育水準の低い，英語を話さない人々である。1960年代後半では，将校クラスの90%が，ガーナ南部の出身であり，最高司令部のエスニック・グループの構成は，エウェ族 (Ewe) 11.5%，ファンティ族 (Fanti) 26%であった。さらに，陸空軍の大佐職の構成は，ガ族 (Ga) 38%，エウェ族 (Ewe) 24%という結果になっている[10]。

警察官と軍隊の総計として考えてみるならば，平均値1をとして，北部のモレ=ダグバネ (Mole-Dagbane) の諸部族とエウェ族 1.4，ガ族 1.11，アカン語族（アシャンティ族，ファンティ族，アクアピム族）0.8のように算出されている。

北部のモレ=ダグバネのダゴンバ族 (Dagomba)，フラフラ族 (Frafra)，クサシ族 (Kusasi)，マンプルシ族 (Mamprusi)，タレンシ族 (Tallensi) などは，軍隊と警察の下層部を構成する。これに対して，アシャンティ族，ファンティ族，エウェ族，ガ族は，中層部から下層部を構成する。

軍隊と警察の上層部を構成するアシャンティ族，ファンティ族，ガ族はいづれも二元的な象徴分類体系をもつ双分組織から形成されている。エウェ族はガーナ社会の「イボ族」(Ibo) としてマイノリティの存在である。このことは，軍隊と警察の政治権力の体系が，二元的な象徴分類体系を媒介として，カラブレの経済交換を生みだす主要な要因となっていることを表わすものである。

本稿において，筆者は，アシャンティ族における男性と女性の二元的な象徴分類の分析視点から，互酬的な贈与交換，ライフ・サイクルの通過儀礼，親族関係をとりあげ，ガーナ社会の危機的な社会経済構造のひとつの症候群である「カラブレ」の経済交換を考察した。

通過儀礼と親族組織の象徴体系は個人と集団ならびに社会集団と社会集団との間の政治関係を分節化するに際して互換的である。通過儀礼の象徴体系は，親族体系の一部であり，また逆に，親族体系は象徴体系の一部となっている。アシャンティ族における通過儀礼と親族組織

の象徴体系の形式は変化しているかもしれないが，カラブレ・ウーマンと軍隊・警察との「カラブレ」の経済交換の機能を果たすために，男性と女性における二元的な象徴分類体系が復活しているのである。「右＝夫方＝男性」と「左＝妻方＝女性」の等式は，「カラブレ」の経済交換を説明するための二元的な象徴分類体系の枠組みをなすひとつの「社会的事実」なのである。

注

0) 男性と女性の二元的な象徴分類については，Janet L. Dolgin, David S. Kemnitzer, and David M. Schneider (eds), Symbolic Anthropology: A Reader in the Study of Symbols and Meanings, New york: Columbia University Press, 1977; Rodney Needam (ed.), Right and Left: Essays on Dual Symbolic Classification, Chicago: University of Chicago Press, 1973, を参照されたい。

1) 十時嚴周「経済発展に関連する非経済的要因について—経済人類学と経済発展の社会理論に関する若干の考察—」『法学研究』第45巻第3号，1972年，53頁。

2) K. A. Busia, The Position of the Chief in the Modern Political System of Ashanti. London: Oxford University Press, 1951, p. 1; R. S. Rattray, Ashanti, London, 1923. Chap. 2 esp.

3) C. Lévi-Strauss, Les structures élémentaires de la Parenté. Deuxième édition, 1941; Moutan, 1967. (馬淵東一，田島節夫監訳『親族の基本構造』番町書房，昭和52年，229頁。)

4) M. Fortes, "Kinship and Marriage among the Ashanti. In African System of Kinship and Marriage. A.R. Radcliffe-Brown and D. Forde, (eds.) London: Oxford University Press, p. 162.

5) Lévi-Strauss. 前掲書224頁。

6) 前掲書，223頁。

7) 前掲書，217頁。

8) Jack Goody, Comparative Studies in Kinship. Stanford: Stanford University Press, 1969. p. 124.

9) Mike Oquaye, Politics in Ghana, 1972-1979. Ghana: Tornado Publications, 1980, pp. 17-26.

10) D. Brown, "Who are the Tribalist? Social Pluralism and Political Ideology in Ghana," African Affairs 81 (322) (Jan. 1982), p. 45.

11) M. Staniland, "The Military Participation of Ghanaian Ethnic Groups," Institute of African Studies Research Review (University of Ghana) 8 (2). 1972, pp. 29-31.

(1982年11月27日脱稿)

APPENDIX 葬儀の通知

GHANA NATIONAL ASSOCIATION OF TEACHERS
(AKROPONG DISTRICT BRANCH)

c/o P. O. Box 27
Akropong-Akwapim.

30th March, 1982.

Dear Colleagues,

OBITUARY
RE: MISS SOPHIA OBENG-BEKOE (1027/69)

I regret to inform you of the sudden death of Miss Sophia Obeng-Bekoe, a Home Science Teacher-in-charge of the Larteh Methodist Middle School. She was 33 years old.

Wake-keeping takes place on FRIDAY, 2ND APRIL, 1982, from 7.30 p.m.

She will be buried on SATURDAY 3RD APRIL, 1982, after a burial service at the LARTEH METHODIST CHURCH at 10.00 a.m.

2. All of us are expected to come to Larteh to mourn the death of our departed colleague.

3. We shall have to donate to the family and so get prepared for that.

E. N. Okyere
(E.N. OKYERE)
DISTRICT CHAIRMAN.

DISTRIBUTION:

ASSISTANT DIRECTOR
GHANA EDUCATION SERVICE
AKROPONG.

ALL SEC. CYCLE INSTITUTIONS.
ALL FIRST CYCLE INSTITUTIONS.